

児童発達支援及び放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月令和 3 年 2 月 8 日

公表:令和 3年 2月 13日

事業所名 多機能型発達支援事業所メグシィ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		施設内に3部屋あるが、必要特別棟を使用し十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		肢体不自由児がいないため段差等、現段階で困難はないが今後そのような方の利用があれば改善しなければならない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		適宜、所内会議を行い常に振り返りと目標設定の見直しを行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様からの意見は真摯に受け止め、所内で話し合い改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修会(ZOOM含む)を開催している。	コロナ禍で外部への研修参加がなかなかできなかった。今後状況を見て多くの研修に参加していきたい。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童発達支援管理責任者を中心に職員で所内会議を基に作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		利用者様の特性把握や能力に関する情報を得る為、有効に活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		個々に合わせた課題をチームで検討し立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		個々に合わせた課題を常に見直し、固定化しないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日や長期休暇は長時間なのでスケジュールを立てて多様な課題に取り組んでいる。	

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別と集団を組み合わせ、どちらの活動にも取り組むようにしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に、その日のスケジュールと役割について確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後、打合せの時間が取れない場合はLINEワークスなどでその日のうちに情報を共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		細かい点も適時記録を残すようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施し、必要時には都度連携を取り計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインの総則を常に意識し、支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者のほか、より支援に携わっている指導員が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		電話で連携を取っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医ケア児はいないが、病院同行や書面で事業所内の様子を提供する体制をとっている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前には担当者会議を行い情報共有、相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		これまで二名程しかいないが、担当者会議に参加し情報提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		今年度はコロナ禍もあり研修に参加できなかったが、必要時意見交換を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			今年度はコロナ禍もあり、そのような場を提供する機会がなかった。時期を見てそのような機会を設けたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			今年度はコロナ禍もあり、参加はなかったが時期を見て参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		適宜電話や面談で情報共有をしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		家庭内でできる療育のアドバイスを行っています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		パンフレットやホームページ等で詳細を公開しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		常時、電話や面談で相談を受け付け、助言や支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			今年度はコロナ禍もあり、そのような場を提供する機会がなかった。時期を見てそのような機会を設けたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情があった際は早急に苦情受付担当者に報告し、対応をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年に数回の会報発行、予定等は毎月の予定表でお伝えしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		研修会も行い、個人情報の取り扱いには十分注意している。	

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		利用者の特性に合ったツールを利用し、意思疎通や情報伝達を行っている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			今年度はコロナ禍もあり、そのような場を提供する機会がなかった。時期を見てそのような機会を設けたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		一斉メールなども活用し常時対応について周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		一か月に一度避難訓練をしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			今年はコロナで参加が出来なかったため来年度以降参加したい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			前例がないが、今後そのようなことがあれば流れに沿って対応していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			医師の指示に基づき家族からの情報提供で対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を職員で共有し、環境の改善を行っている。	